

科目担当者氏名		科目担当者連絡先（メールアドレス）	
吉田優貴			
連絡責任者氏名		科目設置機関名	
浅川 達人		明治学院大学 社会学部 社会学科	
授業科目名	科目認定番号	受講者数	
社会教育調査実習	MJGa-160701-0	15人	

I. 調査実習に関するコメント

学生が果たした役割や実習全般に対する感想など：

現地での参与観察的調査およびインタビュー、収集した紙資料の整理を行った。学生は基本的に教員の指示待ちで、ともすると教員の「調査助手」になりかねなかった点が実習遂行にあたり難しい点だった。また、自分で課題を見いだそうとするよりも、既存の「社会問題」の範囲内で調査対象を理解（誤解）しがちだった。資料整理についても「整理しないでも必要な分を見ればよい」と整理を頑なに拒む学生もいた。他方、自力で考え自分なりの課題を設定しようとする学生もあり、そうした学生は全般的によくできた。

II. 調査の企画・設計（デザイン）

1. 調査のテーマ／領域：

小平団地の人類学的研究2016：課題探索型調査実習

2. 調査の内容／概要：

20代の視点で、東京郊外の旧公団団地の昔と今を、現在団地に居住する人々ならびに以前団地に居住していた人々のさまざまな営みや語りから明らかにする。

3. 調査の範囲／対象（量的調査の場合は母集団と標本数及びサンプリングの方法を、質的調査の場合は対象者選定の理由を必ず記入）：

団地の居住者自身が発足させた団地自治会の歴史と現在、また団地居住者の手でつくりあげてきた毎年恒例の夏まつりの歴史と現在を明らかにするために、現役・引退した自治会役員の方々へのインタビューを実施。また、30年間維持されてきた夏まつりのありようを明らかにするため、準備会議や当日に集まった人々を観察。

4. 主な調査項目：

旧公団団地に対する自分自身の思い込みや無知をまず明らかにするために、先行調査として東京郊外の団地およびその周辺を散策。自分たちの視点のありかを明らかにしたうえで、夏まつり実行委員会への参加（オブザーバー）、二日間にわたる夏まつりでの参与観察（イベントおよび出店の手伝い）、関係者へのインタビュー。

III. データ収集の方法と結果

5. データ収集（現地調査）の方法：

参与観察、インタビュー、資料収集。

6. 調査の実施時期・調査地・調査員の数：

6月～12月・東京都小平市・16名（担当教員を含む）

7. 収集したデータの量と質への評価（量的調査の場合は有効回収票及び回収率を必ず記入）：

調査者自身の視点のありか（対象を見る際のフィルター）自体を念頭におきながら対象となった人たちの話を聞いたため、オートエスノグラフィックかつダイアロジックな、人の息吹が感じられる民族誌的データを得ることができた。

IV. データ分析の方法と結果

8. データ分析／解釈の方法：

人類学領域で行われてきた「外部者と内部者の視点の融合」を目指した参与観察手法を、分析にも援用。調査者自身の立場や前提をまず明らかにしたうえで、多角的な視点でデータを分析／解釈するようつとめた。

9. 調査の成果（調査から得られた主な知見など）：

社会問題ありき（高齢化、少子化、過疎化などの問題ありき）で団地を調査するのではなく、20代の学生が現在居住する団地の人たちや夏まつりに集まってきた人たちと交流するなかで得た人々の語りや営みに関する記録と分析により、生き生きとした21世紀の団地像を浮かび上がらせることができた。

10. 報告書刊行の予定と概要：

『社会調査実習報告書 Vol.33』2017年3月発行。